

# AtCoder Regular Contest 153

## B問題 別解

---

# 自己紹介

---

しんちゃん @Sophia\_maki

兵庫県西脇市出身

明石高専 → 大阪大学工学部

AtCoder 黄色 ・ Codeforces 薄橙

実は明日誕生日です！！

なんでも聞いてね！



初段

🇯🇵 shinchan ★



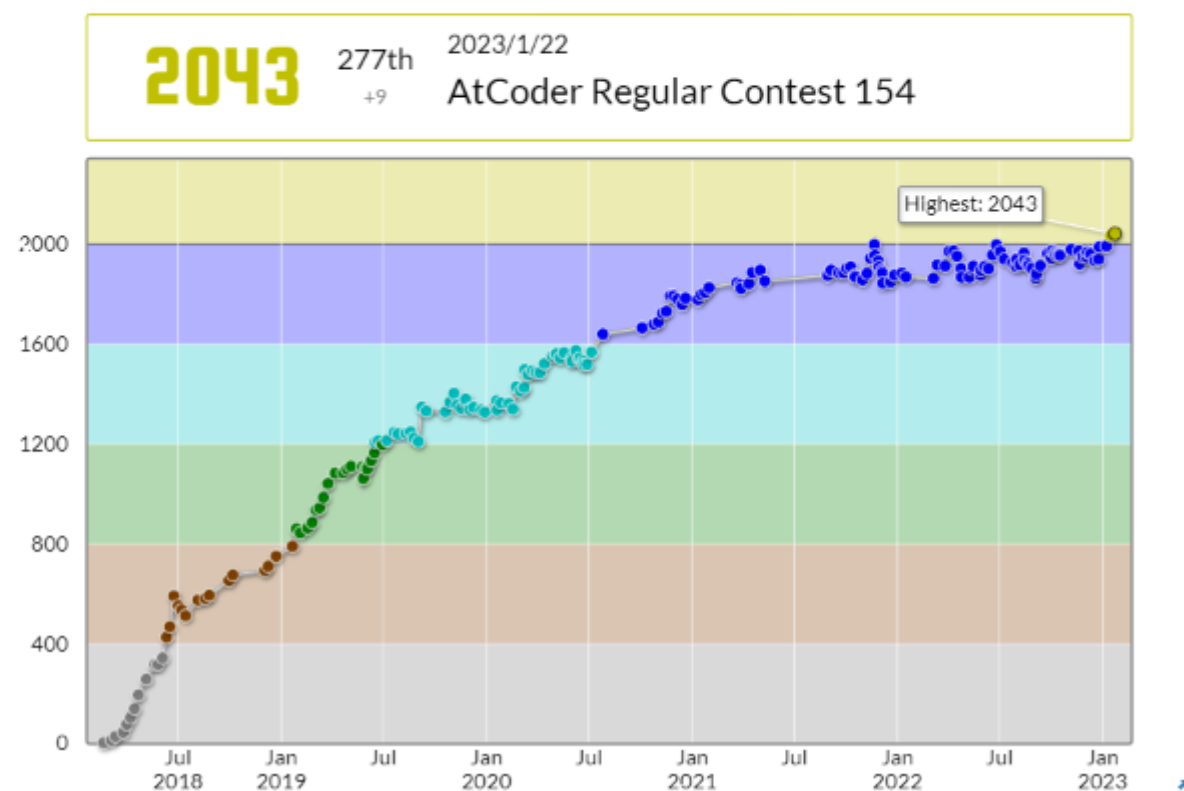
[\[アイコン設定\]](#)

国と地域 🇯🇵 日本  
誕生年 2002  
Twitter ID @Sophia\_maki  
Codeforces ID shinchankosen  
所属 Osaka University

## コンテスト実績

Algorithm Heuristic

順位 1161st  
Rating 2043  
Rating最高値 2043 — 初段 (昇格まであと+157)  
コンテスト参加回数 192  
最後に参加した日 2023/01/22



# 競技プログラミングとは

---

高校数学やアルゴリズムをめっちゃ使うプログラミング

数学オリンピックの知識がすごく使える！  
(現に数学オリンピック経験者が多い)

実は高専数学ではそういう数学が少ないのは別の話

1～5時間程度で4～10問程度(1問あたりコード1～300行程度)

AtCoder等で、ほぼ毎週コンテストが開かれ、参加者は1000～20000人程度

近年コーディングテストで重宝

# 競技プログラミングの大会

---

国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)

1チーム3人。高専4年次、アジア地区大会で25位。  
(予選通過したら横浜！)

パソコン甲子園(PCK)

情報オリンピック(JOI)

Codeforces

PGbattle

賞金でるよ！！

TopCoder

その他企業コンテスト

# どんな問題？

---

実行時間制限: 2 sec / メモリ制限: 1024 MB

配点: 100 点

## 問題文

高橋君の財布の中には 100 円硬貨が 1 枚以上入っており、それ以外には何も入っていません。

高橋君の財布の中の合計金額が  $X$  円である可能性はありますか？

## 制約

- $0 \leq X \leq 1000$
- 入力は全て整数

## C++での解答例

```
#include <bits/stdc++.h>
using namespace std;

int main() {
    int x;
    cin >> x;
    cout << (x % 100 == 0 && x > 0 ? "Yes" : "No") << endl;
    return 0;
}
```

幾何

整数論

グラフ理論

確率・組合せ

文字列

パズル(構築)

# 使用するアルゴリズム

---

深さ優先探索(DFS)

ネットワークフロー(Dinic等)

セグメント木

累積和

幅優先探索(BFS)

最小共通祖先(LCA)

強連結成分分解(SCC)

Union-Find

ローリングハッシュ

行列累乗(一番好きなアルゴリズムです！)

動的計画法(DP)


ダブリング

ダイクストラ(Dijkstra)

# 本題

---

ARC153でAtCoder 黄色になりました！！

190	 shinchan	1400 71:36	300 5:35	500 31:03	600 71:36	-	-	-	2348	1993 → 2034 (+41)
-----	--	---------------	-------------	--------------	--------------	---	---	---	------	-------------------

B問題の解説をします！（ネタバレになったらすみません！！）



# 問題概要

---

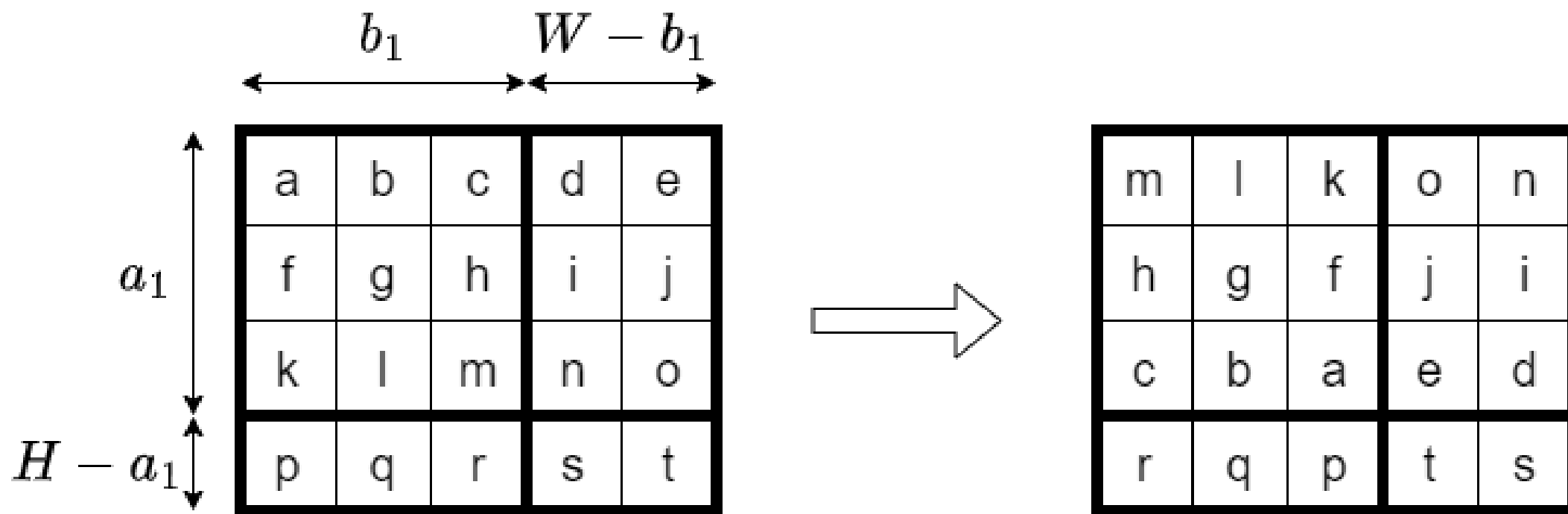
$H \times W$ のグリッドが与えられる( $HW \leq 5 \times 10^5$ )

$Q$ 個のクエリが与えられる( $Q \leq 2 \times 10^5$ )。

クエリの形式：整数 $a, b$  ( $1 \leq a \leq H - 1, 1 \leq b \leq W - 1$ )

クエリの詳細は次ページに記載

すべてのクエリ終了後のグリッドの状態を出力



愚直にやったら  $O(HWQ) \rightarrow$  間に合わない！

画像引用 : [https://atcoder.jp/contests/arc153/tasks/arc153\\_b](https://atcoder.jp/contests/arc153/tasks/arc153_b)

# 公式解説・その他の解法

---

行と列でわけて考えることができる

つまり1次元で考えることができる

でもそこからが難しい

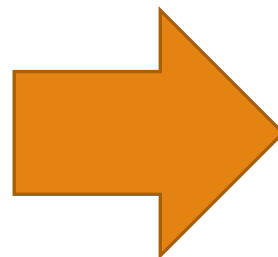
<https://atcoder.jp/contests/arc153/editorial/5484>

Implicit Treap が使えるらしい。(区間反転が $O(\log N)$ でできたりするらしい)

↑ 邪道

# 行列を用いた解法

a		c	d	e
k		m	n	o
p		r	s	t



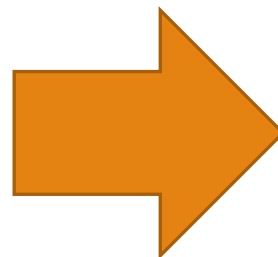
m		k	o	n
c		a	e	d
r		p	t	s

$H = 4, W = 5, a = 3, b = 3$

求めたいもの

# 行列を用いた解法

a		c	d	e
k		m	n	o
p		r	s	t



t	s	r		p
o	n	m		k
e	d	c		a

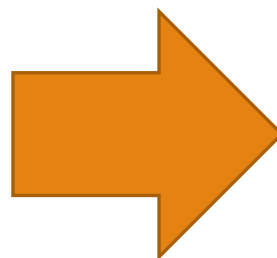
$H = 4, W = 5, a = 3, b = 3$

$a, b$ を気にせず反転してみよう

# 行列を用いた解法

t	s	r		p
o	n	m		k
e	d	c		a

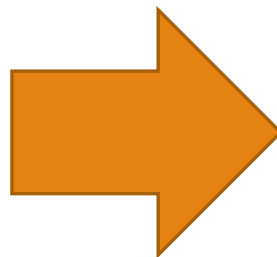
$a, b$  気にせず反転したもの



			t	s	r		p
			o	n	m		k
			e	d	c		a

$(a, b)$  だけ平行移動してみよう

			t	s	r		p
			o	n	m		k
			e	d	c		a



m		k	o	n
c		a	e	d
r		p	t	s

行、列をそれぞれ、 $\text{mod } H, W$ してみよう

求めたいものと一致！！

# 座標 $(i, j)$ の動きを行列にしてみよう

---

$i$  行目  $j$  列目が、 $a, b$ によって $i'$ 行目  $j'$ 列目に動くとする。 $(i, j)$  は0-indexed)

$$\begin{pmatrix} i' \\ j' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} H-1-i \\ W-1-j \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} \pmod{H, W}$$
$$= \begin{pmatrix} a-1 \\ b-1 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} i \\ j \end{pmatrix} \pmod{\text{なので } H, W \text{ 省略}}$$

$$\begin{pmatrix} i' \\ j' \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 & 0 & a-1 \\ 0 & -1 & b-1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} i \\ j \\ 1 \end{pmatrix}$$



# 座標 $(i, j)$ の動きを行列にしてみよう

$$\begin{pmatrix} i' \\ j' \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 & 0 & a-1 \\ 0 & -1 & b-1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} i \\ j \\ 1 \end{pmatrix}$$

$k$ 番目のクエリについて $A_k = \begin{pmatrix} -1 & 0 & a_k-1 \\ 0 & -1 & b_k-1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とすると、操作後の座標は、

$$\begin{pmatrix} i' \\ j' \\ 1 \end{pmatrix} = A_Q A_{Q-1} \dots A_1 \begin{pmatrix} i \\ j \\ 1 \end{pmatrix} \quad \rightarrow$$

$A_Q A_{Q-1} \dots A_1$ を前計算しておくことで、  
あとから各座標を $O(1)$ で計算できる！  
全体 $O(Q + HW)$ ！！

# 実装方針

---

1行目と2行目で別のmodを使うため、modintは使えない。

でもlong long で大丈夫！( $i$ の絶対値は一回のクエリで高々 $a$ しか変化しない)

long long で行列演算後、modすればいい。

このままでもできるが、、

$$\begin{pmatrix} i' \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 & a & -1 \\ 0 & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} i \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} j' \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 & b & -1 \\ 0 & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} j \\ 1 \end{pmatrix}$$

こうすればmodintも使えて実装楽だと思う

# 行列でできること (競プロ関係)

---

- 行列累乗 (一番好きなアルゴリズムです！！)

- 幾何における変換

(今回の問題もこれ。アフィン変換とか。行列ではなく複素数を使う場合も。)

- 連立方程式を解く (競プロではあまり使わないかも？)

# 結論

---

行列を使うと幸せになれます

※宗教勧誘ではありません